

CLF

同志社大学

学習支援・教育開発センターレポート

REPORT

Center for Learning support and Faculty development report

2018.10

vol. **29**

CONTENTS

01
P2-P3

2018年度の設置部会
開催報告

- 2018年度新任教員研修会・TA研修会
- ラーネット記念図書館
リニューアルオープン記念イベント

02
P4-P7

ラーニング・コモンズ運営状況

- ラーネット記念図書館ラーニング・コモンズ開室
 - ラーニング・コモンズ内のプログラム
 - LA紹介とLA研修 ● 学習相談 ● アカデミック・インストラクター紹介
- 各学部・研究科・センターFD活動費について
各学部・研究科・センターFD活動報告

03
P8-P9

2017年度「キャンパスライフに
関するアンケート調査」集計結果

- 卒業後の進路に向けた活動に費やす時間
- 学生ID記入率の推移

04
P10-P12

学外FD企画参加記 FD関連企画のご案内
BOOKS 新着図書情報

2018年度『大学入学準備講座』のご案内
Column大学教育の今「第3サイクルに入った認証評価」

2018年度の設置部会

FD支援部会

教育内容・授業方法の改善を推進するとともに、教育効果に関わる全学的な企画の検討を行うことを目的として設置されています。

部会長からのご挨拶

大島 佳代子



学習支援・教育開発センターは、「本学における全学的な学習支援施策の企画及び実施、全学的な教育施策の企画及び開発、並びに教育活動の継続的な改善の推進及び支援により、大学教育の充実と発展に寄与する」ことを目的としています。

FD支援部会は、上記の目的のうち、特に教育内容、授業方法、教育効果に関わる全学的な企画及び推進を目的に設置されており、2018年度は昨年度に引き続き、部会内に3つのワーキング・グループを置き、各ワーキング・グループにおける課題の検討を行うことを通して、教育活動の改善や教育の充実と発展に繋げていきたいと思っています。

FD支援部会の活動が全学的なFD活動のひとつとして一層充実したものとなるよう、部会委員の皆さまのみならず、教職員の皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2018年度事業計画(各ワーキング・グループの検討項目)

- **教育効果向上策検討ワーキング・グループ**
教育改善、教育効果向上を目的に導入された既存のツールと手法(シラバス、学生による授業評価アンケート、授業講評等)について再点検を行い、さらなる有効活用の検討を行います。
- **内部質保証検討ワーキング・グループ**
各科目とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの関係性を可視化するツールとしてのカリキュラムマップ作成の検討や間接評価と直接評価の両面からの内部質保証システムの検討を行います。
- **ICT活用検討ワーキング・グループ**
同志社大学オープンコースウェアをはじめ、本学におけるICTを有効活用した教育の展開方法について検討を行います。

学習支援検討部会

本学における学習支援活動や学習支援環境(ラーニング・commons等)の運営方法を検討することを目的として設置されています。

部会長からのご挨拶

大久保 雅史



学習支援検討部会は、良心館ラーニング・commonsが開室した2013年度から2016年度まで設置されていましたが、運営が軌道に乗ったことから、2017年度からはFD支援部会の中のワーキング・グループとして設置しました。

しかし、2018年4月に、京田辺校地ラーネッド記念図書館内に新たにラーニング・commonsが開室し、今後、正課外における京田辺校地の特性を踏まえた学習支援プログラムや学習支援のあり方の検討が必要となることから、京田辺校地の学部・研究科の教員と学識経験者として今出川校地の教員にも協力を仰ぎ、あらためて学習支援検討部会を設置しました。

具体的には、2018年度事業計画の達成に向けて4つのワーキング・グループに分かれ、①理系特化型サポート、②リメディアルサポート、③京田辺キャンパス学生向けサポート、④LA・TA研修プログラム(良心館ラーニング・commons)について検討を行います。

部会委員の皆さまのみならず、教職員の皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2018年度事業計画

- ラーネッド記念図書館ラーニング・commonsでのセミナー、イベント検討
- ラーネッド記念図書館ラーニング・commonsの運営検討
- LAとの連携によるTAの質向上
- 学生の主体的な学習を促進するための取組み

開催報告

2018年度新任教員研修会・TA研修会

新任教員研修会を4月2日に開催しました。研修会では、①ガバナンス、意思決定の仕組み、②教育活動、③グローバル化の取組み、④学生支援体制、⑤研究活動、⑥入学試験業務、⑦教育・研究倫理について、各所管の機構長、所長、室長より説明いただきました。TA研修会を4月4日・5日・6日に開催しました。研修会では、TA制度の定義・目的、TAの業務内容・心得、キャンパス・ハラスメントの防止、TAの事務手続き等についての説明のほか、TA経験のある若手教員や大学院生からはご自身の体験談をお話いただきました。各研修会の動画・資料を下記のページで公開していますので、ぜひご覧ください。

新任教員研修会 「教職員のページ」(本学教職員のみ閲覧可能)

TA研修会 <http://cf.doshisha.ac.jp/ta/ta.html>



今年度は52名の参加がありました。



3日間の開催で合計515名の参加がありました。

ラーネッド記念図書館リニューアルオープン記念イベント

日時 4月18日(水) 昼休み(12:20～13:05)、4月27日(金) 昼休み(12:20～13:05)

会場 ラーネッド記念図書館ラーニング・commons(プレゼンテーションコート)

対象者 学部生、大学院生、教職員

2018年1月にラーネッド記念図書館がリニューアルオープンし、4月にはラーネッド記念図書館1階にラーニング・commonsが開室しました。これを記念して、図書館と共催で記念イベントを開催し、本学の松岡敬学長と野末俊比古教授(青山学院大学)をゲストとしてお招きしました。

松岡学長からは「大学での学びとは」と題して、学長ご自身が実践してこられた学習や研究の経験をもとに、研究を志したきっかけや心がけてこられた学習方法についてお話いただきました。

野末教授からは「学習資源・環境をフル活用するコト〜新しい学びとラーニング・commons〜」と題して、ラーニング・commonsや図書館等を使った新しい学び方や、施設の有益な使い方についてお話いただきました。

当日は学部生や大学院生のほか教職員の参加もあり、新年度が始まり、改めて大学での学びについて考える有益な機会となりました。

京田辺校地 ラーネッド記念図書館
リニューアルオープン記念イベント第1弾

GUEST
同志社大学
松岡 敬学長
「大学での学びとは」

2018.4.18(水)
12:20-13:05
京田辺校地 ラーネッド記念図書館
ラーニング・commons

学業に専念が前提としてこられた学習や研究の経験をもとに、「大学での学び」についてお話しいただきます。また、学長が研究を志したきっかけ、心がけてこられた学習方法などもご紹介いたします。お好きなドリンクを持って、お気軽にお話しください。どなたでもご参加いただけます。

参加費無料・事前申込不要
主催 ラーネッド記念図書館センター、図書館



京田辺校地 ラーネッド記念図書館
リニューアルオープン記念イベント第2弾

GUEST
青山学院大学
教育人間科学部
野末 俊比古 教授
「学習資源・環境をフル活用するコト
〜新しい学びとラーニング・commons〜」

2018.4.27(金)
12:20-13:05
京田辺校地 ラーネッド記念図書館
ラーニング・commons

いよいよ京田辺校地にラーニング・commonsが開室しました！今回は、青山学院大学の野末先生をお迎えし、ラーニング・commonsや図書館を使った新しい学び方や、施設の有益な使い方についてお話いただきます。大学での学習を充実させるために活用するスキルやツールについて一緒に考えてみましょう。お気軽にお話しください。どなたでもご参加いただけます。

参加費無料・事前申込不要
主催 ラーネッド記念図書館センター、図書館



ラーニング・コモンズ運営状況

ラーネット記念図書館ラーニング・コモンズ開室

2018年4月1日より京田辺校地にラーネット記念図書館ラーニング・コモンズが開室しました。図書館1Fにあります。当ラーニング・コモンズのコceptは今出川校地良心館ラーニング・コモンズと同様です(詳しくは<http://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/>)。

エントランスホールにはプレゼンテーションコートとラウンジがあります。室内に受付があり、グループワークエリア、ワークショップルームなど各学習エリアが用意されています。インフォダイナーは17ブースあり、すべて軽食可能なエリアです(そのうち10ブースは予約が必要となっています)。室内中央にあるアカデミックサポートエリアには平日の開室時間(10:30-17:30)に学習相談をおこなっています。アカデミック・インストラクターや大学院生のラーニング・アシスタント(LA)が常駐し、学生からの学習に関する課題に寄り添って、アドバイスしています。春学期には延337名からの相談がありました。開室早々の4月は利用者の少ない日もありましたが、5月以降から学期終了時まで、すべてのエリアで多くの利用学生で賑わいをみせておりました。



(プレゼンテーションコート)



(グループワークエリア)



(アカデミックサポートエリア)

ラーニング・コモンズ内のプログラム

学習相談のほかに、良心館ラーニング・コモンズでは2018年度春学期から「アカデミックスキルセミナー」を開催しています。希望するセミナーに対し、専用予約サイトで申し込みをしてもらいます(定員30名)。春学期は36セミナーを開講し、連日多くの参加がありました。ラーネット記念図書館ラーニング・コモンズでも今出川校地と同じく「アカデミックスキル養成ワークショップ」を開催しました。30分で6つのメニューを用意(全17回)し、こちらは申し込み不要の当日参加としました。

ラーネット記念図書館ラーニング・コモンズでは独自のプログラムとして「Writing & Presentation Tutorial Class」を7・8月に開催しました(全11回)。理工学部の先生による英語関連のネイティブチェック、アドバイスを受ける機会を用意し、個人もしくはグループによる相談利用がありました。



アカデミックスキルセミナー
ポスター



アカデミックスキル養成ワークショップ
ポスター



Writing & Presentation Tutorial Class
告知サイネージ

LA紹介とLA研修

2013年度秋学期よりラーニング・アシスタント(LA)を採用し、アカデミック・インストラクターのもとチームとして学習相談を実施しています。2018年度は表1のとおり、今出川校地では6つの研究科から博士前期課程と博士後期課程、一貫制博士課程の合計16名が、京田辺校地では5つの研究科から博士前期課程と博士後期課程、一貫制博士課程の合計19名の大学院生が活躍しています(両校地あわせると35名)。

2018年度新規採用LAは両校地にて2018年3月にLA研修(第1~4回)を行いました。秋学期を前に今出川校地では第5回のフォローアップ研修を、京田辺校地では秋季研修を実施しました。

表1 2018年度 LA所属一覧 ※()は一貫制博士課程

	博士前期課程	博士後期課程	合計		博士前期課程	博士後期課程	合計
文学研究科	1	3	4	文化情報学研究科	5	1	6
社会学研究科	2	4	6	理工学研究科	5	1	6
法学研究科	0	1	1	生命医科学研究科	4	1	5
商学研究科	0	1	1	心理学研究科	0	1	1
総合政策科学研究科	0	2(1)*	2	脳科学研究科	0	1(1)*	1
グローバル・スタディーズ研究科	1	1	2	合計	14	5	19
合計	4	12	16				

今出川校地

京田辺校地

学習相談

良心館ラーニング・commons 3Fアカデミックサポートエリアでは学習相談を実施しています。昨年度(2017年度)の学習相談内容の月別集計が表2です。

まず、「レポートの書き方」、「調査、研究の方法」、「論文の書き方」、「日本語チェック」、「文献の調べ方」、「特定の科目の学び方」で100件以上の相談がありました。中でも「レポートの書き方」、「論文の書き方」、「日本語チェック」で788件と多くを占めています。

次に、時期によって寄せられる相談内容に特徴がみられます。「レポートの書き方」は4・7月と1・2月、「調査、研究の方法」は8・12月、「論文の書き方」は12月に多くなっています。どのような質問であれ、いつの時点でもアカデミック・インストラクター、LAがチームとなってサポートしています。

表2 2017年度 月別相談件数(今出川校地) 2017年4月1日~2018年3月31日の相談を集計

学習相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
レポートの書き方	35	109	59	102	14	2	20	32	20	35	18	0	446
調査、研究の方法	7	5	12	28	19	43	61	48	51	13	5	3	295
論文の書き方	3	1	5	5	9	23	33	21	75	10	5	2	192
日本語チェック	8	5	19	24	8	27	12	6	22	9	7	3	150
文献の調べ方	16	15	6	14	3	4	10	16	20	10	3	0	117
特定の科目の学び方	3	23	7	17	11	3	15	5	11	11	1	0	107
プレゼンテーションの方法	2	15	6	14	1	8	12	6	15	7	0	0	86
レジュメの作り方	6	10	3	5	0	0	4	7	2	10	0	0	47
進学・就職など卒業後の進路	2	4	1	7	0	3	11	3	3	3	0	0	37
留学について	4	3	1	0	0	3	3	0	3	1	3	0	21
学業上の悩み・不安	1	1	3	0	3	1	7	0	0	0	0	0	16
語学の勉強	3	3	1	0	1	2	0	1	0	0	0	0	11
自分にあった勉強法	0	1	1	2	0	1	2	0	0	2	0	0	9
文献の読み方	0	3	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	6
その他	16	30	2	9	1	6	5	4	4	7	1	0	85
合計	106	228	126	227	70	126	195	150	228	118	43	8	1625

総件数(1回の相談で複数の内容も含まれる)

アカデミック・インストラクター紹介

ラーニング・commonsには、学生の学習相談や各種学習イベントの企画・実施等を行うアカデミック・インストラクターが常駐しています。2018年4月に着任したアカデミック・インストラクターをご紹介します。

矢内 真理子 やない まりこ



2018年度から当センターの助教として着任しました。17年度までは社会学研究科の大学院生でした。専門はメディア論で、福島原発事故報道の言説分析を研究のテーマにしています。週刊誌や地方紙、テレビ番組やラジオ番組を対象に研究を続けています。4月から授業を受ける側から教える側になり、戸惑うことも多いですが最近なんとか慣れてきたところです。

同志社の学習相談のよい点は、相談者と教員・LAの関係性です。私たちは直接授業評価にかかわっていないため、ここでわからないことを聞くことはマイナスの評価にはなりません。「今更聞けない」と思うことや、ささいなことでも、なんでも話を聞きます。私たちは、皆さんがより専門分野について深く学べるように、その手助けをする役割を担っています。学習相談を使うことで、皆さんに「私はこれを学んだ！」と胸を張って大学を卒業してほしいと思います。アカデミックサポートエリアでお待ちしております。

得意分野 社会学/メディア論/災害情報論

岩崎 友明 いわさきともあき



これまで大学図書館の司書業務に携わって参りました。レファレンスカウンター業務で体験した学生からの質問では、極めて少ない言葉で問われることが多く、具体的に何を知りたいのか、あえて問い返さないと漠然としていることがよくありました。また、調べたいキーワードが一つだけだと膨大な検索結果となり迷うことも、複数のワードを組み合わせることで、知りたい情報を絞り込ませることができることも多々ありました。わからないことへの「問い」をいかにたくさん聞き出し、情報の「絞り込み」をいかにおこなうか、これまでの経験を生かして「情報探索」を核に学生にアドバイスしていきたいと思っています。特に怖いことは「何がわからないのかわかっていない状況」で、その点にまず気づいていただきたいです。そのためにはラーニング・commonsを越えた協力を仰ぎながら、学生にとっての積極的な学びの場を構築していくことを考えていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

得意分野 情報探索/芸術学/図書館学

木原 宏子 きはらひろこ



京田辺キャンパスのラーネット記念図書館ラーニング・commons (LC) が2018年4月にオープンし、私はそのオープニングスタッフとして着任しました。オープンしてから早速、多くの学生が利用してくれています。LC内の機器や設備を駆使して、仲間と協力しながら学び合う姿に、LCがいかに待ち望まれていたかを感じました。また一方で、すんなりとLCが学内に馴染んでいることにもほっとしています。学生の皆さんが能動的に学ぶ場の一つとして、LCがより魅力的な場所になるよう、ラーニング・アシスタントや紺ジャンスタッフと一緒に、引き続き盛り立てていきます。

これまで、大学院生スタッフとしてLCの立ち上げや、その後助教としてライティングセンターを含むLC運営を行ってきました。LC運営のほかには、ライティング科目の授業担当や体育会学生の学習支援、初年次科目連携(体験学習プログラム等)、学内図書館連携、ボランティアスタッフの育成、FDイベント等の業務も担当しました。専門は教科教育学(国語)ですが、さまざまな視点からLCの発展に寄与したいと思います。

得意分野 レポート作成法(人文・社会学系)/基礎的な学習スキル/教科教育学(国語)

各学部・研究科・センターFD活動費について

学習支援・教育開発センターでは、各学部・研究科・センターレベルでのFDに関する取組に対し、FD活動費（FD支援費）の補助を行っています。以下の点に留意していただき、積極的な活用をお願いします。

FD活動費（FD支援費）の使用例

- 卒業時アンケート調査・新入生対象アンケート調査関連費用
- 授業評価における専門的知識の提供に対する謝礼
- FD講演会・セミナー等開催関連費用
- FD関連書籍購入費用 等
- ※ 組織の懇親会や親睦会は該当しません。

留意事項

- 教員個人レベルでの研究会、研究会参加費、部会委員としての催しへの参加経費等は「教育開発調査活動費」制度より支出する。
- 組織代表者（個人）への支出の場合、その後のフィードバックの状況（内容）を示すこと。
- 補助の対象は非営利活動に限定する。また、文部科学省等の補助事業には使用できない。
- 補助を希望する場合は、事前に学習支援・教育開発センター事務室に申し出ること（申込書の提出が必要です）。
- 会合費*を使用する場合は、本学専任教職員を補助対象とする（学外講師の会合費は補助可）。
- FD講演会や会合の開催テーマや趣旨について、資料や記録等を提示すること

* 会合費について

- 研究会開催等の会議費用（昼夜を問わない）及び昼食時における学外講師との懇談費用の場合は1人あたり単価1,200円（税別）までとする。ただし、夕食時における学外講師（＝本学教職員以外）との懇談費用等の場合は1人あたり単価3,000円（税別）までとする。
- 会合費にアルコールは含まない（会合費としての補助は不可）。

ご不明の点は、学習支援・教育開発センター事務室までお問合せください。

各学部・研究科・センターFD活動報告

このコーナーでは、各学部・研究科・センターにおけるFD活動の報告を順次掲載していきます。

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学部では英語コースと中国語コースの2年次に1年留学(Study Abroad)を必修としている。また、全学外国語科目においても短期留学プログラムを担当していることから、海外危機管理のあり方は教職員にとって関心の高い問題である。2018年7月24日に実施したワークショップでは、外部講師（KNT-CTホールディングス株式会社 営業統括本部 教育旅行部 田川清広氏）を招聘し、「留学等における海外危機管理の対応について」のテーマのもと、本学部教職員の危機管理体制への意識を更に高め、また現行の危機管理体制や指導のあり方をめぐる問題点について確認、共有した。

本ワークショップでは、講師の講演を聴くだけでなく、第一部で海外安全管理・対応や各種リスクの予防についての一般的な知見を得た後に、第二部で自らの意見やアイデアを発言しディスカッションする形式としたことにより、活発な意見交換がなされ、それらを通じて、教員自身はもとより学生への危機管理への意識向上を図るための授業上での取組も必要である等、具体的な課題が明確となった。

今回のワークショップでは、任期付教員を含む専任教職員ほぼ全員の参加があり、留学を必須とする学部の特性上、危機管理は教員間でも関心の高いテーマであることが分かった。危機管理については重要な事項であることは個々の教員で理解はしつつも、学部全体での情報共有や意見交換をする機会がなかったが、今後も継続的にこのような機会を持つことで、危機管理への意識向上を学部全体として図っていく必要があると思われる。また、今回の講演・ワークショップは主として学生に対する危機管理指導の観点から行われたが、実際に危機が起こった時に適切に対応できることも重要である。本学部では危機対応のマニュアルは整備されているが、それを基に間違いなく対応できるよう訓練等も適時実施し、より万全な危機管理体制の構築も今後の大きな課題である。

グローバル・スタディーズ研究科

2018年7月24日、志高館SK119教室にて、ハラスメント防止の啓蒙活動に積極的に取り組まれている吉田容子弁護士（市民共同法律事務所）をお招きして、研修会「ハラスメントの発生原因と対策」を開催した。在外研究や公務出張などやむを得ない事情による欠席を除き、グローバル・スタディーズ研究科の全教員が参加した。また、日本語の理解が困難な外国人教員向けに英語の逐次通訳を実施した。

吉田容子弁護士の講演の後、講師と参加者による活発な議論が行われた。講演の冒頭の「ハラスメントとは」では、職務上の地位や人間関係などの優位性を背景に、職務の適正な範囲を越えて人格・人権を否定する言動が行われ、相手に精神的・身体的苦痛を与え、職場環境を悪化させる事例が起こりうること、「ハラスメントの発生原因」では、ハラスメントの多くが優位性にもとづく「過失」によって発生することが述べられた。「具体例」では、近年のハラスメントをめぐる3つの裁判事例が紹介され、「対策」では、ハラスメント防止のために、①規則、ガイドライン等の制定、②教職員、学生のための研修の実施、③相談体制の整備が必要であること、また、事後の対応として、①早期介入、②適正な調査、③適正な処分、④被害者への支援が必要であることが指摘された。質疑では、本件を担当する全学委員会が必ずしも十分に機能していないこと、外部相談員制度を導入すべきこと、集団での学生指導を導入すべきことなどが指摘され、議論がなされた。GS研究科においては、今後も定期的に研修を実施していくことの必要性が確認された。

2017年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」集計結果

学習支援・教育開発センターでは、2004年度から「キャンパスライフに関するアンケート調査」を実施しています。この調査は、学生の学習状況や意識を捉えることによって、本学の教育改善につなげることを目的としています。毎年3月下旬の成績交付時に、1年次および3年次の終了時点の学生を対象に調査を行っています。2017年度は、1年次生の調査で4469件（回収率：69.2%）、3年次生の調査で4111件（同65.6%）の回答を得ることができました。

卒業後の進路に向けた活動に費やす時間

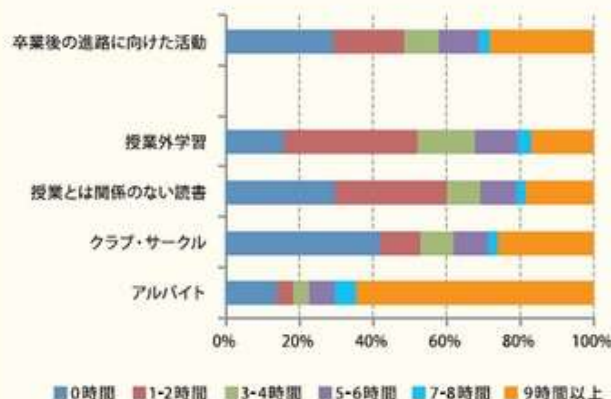


図1: 各種活動に費やす一週間あたりの時間 (3年次)

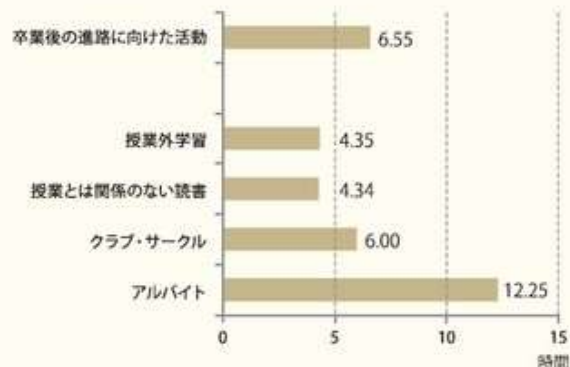


図2: 各種活動に費やす一週間あたりの平均時間 (3年次)

「キャンパスライフに関するアンケート調査」では、学生のライフスタイルを把握するために、授業外学習、授業とは関係のない読書、クラブ・サークル、アルバイトといった各種活動に対して、授業期間中の1週間あたりに、どの程度の時間を費やしているのかを尋ねています。2017年度の3年次調査では、これらの項目に加えて、新規項目として「卒業後の進路に向けた活動に費やす時間」を追加しました。そこで、今回のレポートでは、本学の3年次生がどの程度の時間を進路に向けた活動に割いているのかを検討します。なお、卒業後の進路に向けた活動には、就職イベント、インターンシップへの参加のほか、公務員・資格試験の準備等も含まれます。

図1は、学生から得られた回答を2時間ごとに区分し集計したものです。参考までに、図1には卒業後の進路に向けた活動の他にも、授業外学習、授業とは関係のない読書、クラブ・サークル、アルバイトの集計結果も併記しています。図1によると、卒業後の進路に向けた活動に費やす時間としてもっとも多いのは、「0時間」でおよそ3割（29.8%）を占めています。これに、わずかな差で「9時間以上（28.1%）」が続いています。この結果から、学生のタイプは、卒業後の進路に向けて積極的に活動する層とそうではない層に、大きく「二極化」しているものと推測されます。なお、平均活動時間は6.55時間で、これは図2に示されているように、クラブ・サークルの平均活動時間（6.00時間）と同程度でした。



図3: 希望進路別にみた卒業後の進路に向けた活動に費やす時間 (3年次)



図4: 希望進路別にみた授業外の学習時間 (3年次)

次に、希望進路との関連を検討してみましょう。図3は希望進路別に回答を整理したものです。図3をみると、卒業後の進路に向けて、もっとも熱心に活動しているのは、「公務員・教員」志望者であることがわかります。「公務員・教員」志望者で、「9時間以上」は半数近く（49.6%）を占め、「0時間」との回答は2割以下（15.3%）にとどまっています。

続いて、「民間企業・自営」志望者について傾向を確認してみると、回答分布の形状は大学全体と近似していることがみてとれます。すなわち、「9時間以上」が約3割（30.1%）を占めている一方、「0時間（23.0%）」、「1-2時間（19.6%）」もそれぞれ2割程度を占め、大学全体と同様、「二極化」していることがうかがえます。「大学院」進学希望者、「他大へ編入・専門学校」希望者、「未定・その他」については、いずれも「0時間」との回答が5～6割を占めています。

ただし、「大学院」進学希望者、「他大へ編入・専門学校」希望者が進学（編入学）準備を怠っているわけではありません。図4は、希望進路別に授業外学習時間の集計結果をまとめたものですが、これをみると、「大学院」進学希望者、「他大へ編入・専門学校」希望者は、「9時間以上」が3割をこえ、その割合は、「民間企業・自営」、「公務員・教員」志望者と比べて10ポイント以上も多いことが確認できます。さらに、「大学院」進学希望者で、授業外学習が「0時間」と回答した学生の割合は6.6%と1割を大きく下回っている点も注目されます。このように、進学（編入学）希望者は、希望進路に向けて授業外学習に動んでいることがわかりました。

学生ID記入率の推移

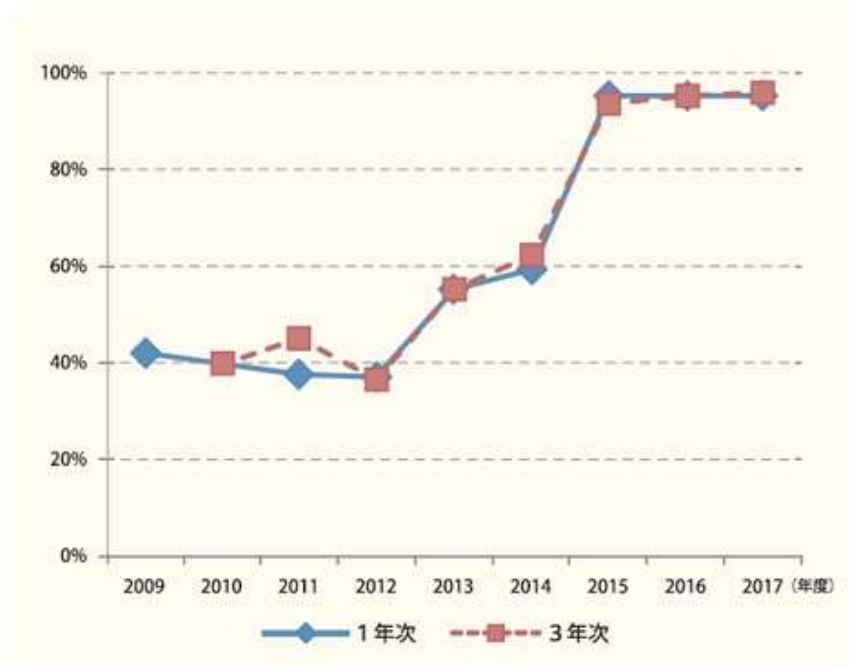


図5：学生ID記入率の推移

「キャンパスライフに関するアンケート調査」は、2004年度に開始されましたが、2009年度より任意で学生IDの記入を求めています（3年次調査は2010年度より開始）。学生IDの活用目的は、1年次とその2年後に実施される3年次の調査データを学生IDで紐づけ、パネルデータを構築することにあります。今回は、学生ID記入率の推移を紹介いたします。

図5は、2009年度から2017年度まで直近9年間の学生ID記入率の推移をまとめたものです。図5をみると、1年次調査と3年次調査の学生ID記入率は、2011年度を除き大きな相違がないことが確認できます。2012年度までID記入率は40%前後で推移していますが、2013年度に20ポイント近く上昇し、はじめて50%を突破します。その後、2015年度に、再びID

記入率は大幅に上昇し、2015年以降は90%をこえています。2013年度と2015年度に学生IDの記入方法やレイアウトを変更したため、ID記入率の上昇には、これらの点が大きく影響しているものと推測されます。

学生ID記入率の上昇とともに、学生IDの一致数（パネルデータのサンプルサイズ）も増加してきました。2011年度には学生IDの一致数は500ケース（人）に届きませんでしたでしたが、2017年度には3000ケース（人）をこえ、学部別の分析を行うことが可能となりました。パネルデータの利点として、意識や行動の「変化」を詳細に捉えられることが挙げられます。今後はパネルデータを積極的に活用し、学習行動・過程の内実に迫っていきたいと思います。これからも引き続き、本調査へのご支援・ご協力をお願いいたします。

以上、ここまで、「2017年度キャンパスライフに関するアンケート調査」について集計結果の一部を紹介してきました。調査票および集計結果の詳細については、学習支援・教育開発センターのホームページにて公開予定です。

【集計・分析：菅澤 貴之（学習支援・教育開発センター 准教授）】

学外FD企画参加記

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、FDに関連したセミナーやシンポジウムのご案内をしています。実際に参加された先生にセミナーの様子や感想をお伺いしていますので、今後の参加の参考としてください。

※今後開催予定のFD関連企画はP.11でも紹介しています。

平成30年度ICT利用による 教育改善研究発表会

- テーマ 社会の変化を展望した人材育成とICT活用の強化拡大
- 開催日 2018年8月9日(木)
- 主催 私立大学情報教育協会

文化情報学部 宿久洋 教授

この発表会は全国の大学教員を対象に、教育改善のためのICT利用によるFD活動の振興普及を促進奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質的向上を図ることを目的としており、今回は「A:社会科学・幼児教育・人文科学・地域」「B:医学・農学・工学・理学・生活・その他」「C:情報基礎・情報専門・語学・初年次・環境」の3会場で40件の発表が行われた。

私は主にC会場を中心に聴講したが、発表の多くは単にICT機器を使うというのではなく、PBL、TBL、反転授業、ブレンド型授業との組み合わせなどを行う形での授業改善の報告であった。大規模で複数教員が担当する授業において、如何に学生の理解度を把握し授業を進めるのか、統一的な基準による成績評価をどう実現するのかなどに関する取組が紹介された。発表を聞いた率直な感想を言えば、特に新しいとはなく、ある程度効果がみられると分かっていることをやってみたというものであった。

本学部で実施している演習においては、LMSの機能を積極的に利用しており、同じ時間帯での複数クラスの開講、同一の教材、同一の基準による評価、学生との双方向でのやり取り、については実現している。

一方で、複数の教員が担当可能、多様な学生が存在する中で均一の講義を実施することが最良の選択であるかどうかについて疑問をもつ機会となった。同一内容の講義であるので評価基準が統一されていることは必須であるが、教育目標を達成するための教育方法まで統一することが果たして良いことなのかは疑問が残る。現在の方法の教育効果について測定し、場合によってはクラスごとの教育方法の変更を検討することも必要ではないかと考えている。

特定の知識技能を習得させることは直接的な目標ではあるが、必要に応じて自立的に学び続けることができる能力を養うことがより大きな目標となることを考えると、近年、注目されている自己調整学習SRL (Self-Regulated Learning)を取り入れることも有力な選択肢となると考えている。LMSを使ってフェーディングや自己モニタリングをうまく実現し学生個人々の状況に対応した学習を促すことができるのではと考えている。

高等教育質保証学会第8回大会

- テーマ 大学の内部質保証、外部質保証を分野別評価の視点から考える
- 開催日 2018年8月25日(土)～8月26日(日)
- 主催 高等教育質保証学会

政策学部 武蔵勝宏 教授

8月25日～26日に開催された高等教育質保証学会第8回大会は、大学の質保証の重要な一翼を担う教育プログラムの質保証について、機関別評価と関連付けながら「分野別評価」の視点からも併せて考究することをテーマとして開催された。私は現在、総合政策科学研究科において、大学院教務入試検討委員会の委員として、カリキュラムの点検評価の仕事に携わっており、今回の質保証の取り組みに関するセッションを聴講することを通じて、職務に必要な知見とノウハウを獲得しようと思い参加した。初日には、大学基準協会の永田恭介会長より「我が国の大学改革と教育質保証の方向性」と題する講演があり、18歳人口の減少により、日本の高等教育が競争力低下の厳しい状況に立たされているとの危機感が示され、大学改革と教育の質保証の重要性が述べられた。午後にはポスターセッションがあり、「博士後期課程のコースワーク化」をテーマに、約1時間あまりポスター報告を行った。大学教員、職員の方から多数のコメント、質問が寄せられ、大変参考になった。引き続いて、「教職課程、その質保証の現在と今後を考える～再課程認定後の教員養成教育の質をどう確保し保証していくのか～」をテーマとした部会で、教職課程の再認定の在り方や認証評価の必要性について実務家を交えた討論が行われた。第2日目の午前には、「認証評価における分野別評価の考え方～内部質保証、外部質保証の両側面から～」をテーマに、機関別認証評価機関から、内部質保証の進め方と教育プログラムの評価・質保証の関連が議論された。午後の「専門分野別質保証の展開」では、技術、医薬、法曹の各専門分野のプログラム評価の質保証における意義が議論された。

以上の各部会に参加することを通じて、大学が全体として組織的に取り組む内部質保証と外部による第三者評価や専門分野別の評価の相互を有機的に結び付け、法令順守はもとより、学生に対する教育の「質」の向上に取り組むことの重要性について認識を深めることができた。

FD関連企画のご案内

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、学内外で開催されるFD関連企画を紹介しています。メーリングリストでの情報配信をご希望の場合は、学習支援・教育開発センター事務局までお知らせください(本学専任教職員を対象とします)。

今後、学外で開催される主な企画は以下の通りです。その他の企画についても随時お知らせしますので、積極的なご参加をお待ちしています。

研究科・研究会のご案内ページ

<http://clf.doshisha.ac.jp/research/research.html>

開催日程	企画名称	会場
10月17日(水)	日本私立大学連盟 私大連フォーラム2018	第一ホテル東京
12月1日(土)・2日(日)	大学教育学会 課題研究集会	長崎国際大学
3月2日(土)・3日(日)	大学コンソーシアム京都 第24回FDフォーラム	立命館大学 衣笠キャンパス
3月2日(土)・3日(日)	大学評価学会 第16回全国大会	神戸大学
3月23日(土)・24日(日)	第25回大学教育研究フォーラム	京都大学 吉田キャンパス

※上記一覧は予定ですので、開催時期や会場が変更されることがあります。

※参加にかかる費用は学習支援・教育開発センターが負担します。

BOOKS 新着図書情報

学習支援・教育開発センターでは、大学改革やFD関係の図書資料を収集し、専任教職員の方に事務室で閲覧していただけるようにしています。貸出も可能ですので、センターに直接お越しになるか、ホームページ掲載の所蔵図書資料一覧をご覧ください、ご希望の資料があればメールまたはお電話でご連絡ください。学内便でお届けします。

図書資料のご案内ページ

<http://clf.doshisha.ac.jp/books/list.html>



数理学教育の現代的展開

東北大学高度教養教育・学生支援機構(編)
東北大学出版会
2018.3
ISBN:978-4-86163-305-8



リベラル・アーツの源泉を訪ねて

絹川正吉(著)
東信堂
2018.6
ISBN:978-4-7989-1498-5



グローバル社会における日本の大学教育

河合塾(編著)
東信堂
2018.3
ISBN:978-4-4-7989-1463-3



高大接続の本質

清上慎一(責任編集)
京都大学高等教育研究開発推進センター/河合塾(編)
学事出版
2018.2
ISBN:978-4-7619-2384-6

*センターで所蔵した方が良いと思われる書籍等がありましたらご推薦ください。

また、図書の他にも、FDに関する雑誌・機関紙や報告書等を収集しています。上記の「図書資料のご案内ページ」よりご覧いただき、ご活用ください。

2018年度「大学入学準備講座」のご案内

学習支援・教育開発センターでは、高校生向けに、大学で要求される学習の質と量を知ってもらい、正しい学部選択の機会を与えることを目的として、「大学入学準備講座」を開講しています。

この講座では、秋学期の土曜日の午後、各学部・学科の教員が、それぞれの専門分野で扱う学問の内容から面白そうなテーマを選んで、実際の大学での講義と同じ形式で、高校生に授業を行います。

今後開講分の講座については受講申込みを受付けていますので、詳細は以下のURLよりご参照ください。

大学入学準備講座のページ

http://cf.doshisha.ac.jp/preparation_course/course.html

	13時10分～14時40分	14時55分～16時25分
9月22日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座①】大学進学のエコノミクス 経済学部 四谷晃一 准教授	【講座②】なぜ社会は組織であふれているのか ～人と組織の関係～ 政策学部 久保真人 教授
9月29日(土) 京田辺キャンパス (夢告館101番教室)	【講座③】具体的な人間行動としてのコミュニケーション研究 ～グローバル時代の視点～ グローバル・コミュニケーション学部 松木啓子 教授	【講座④】近世城郭のデータ分析で学ぶ日本の歴史 文化情報学部 勤柄俊夫 教授
10月6日(土) 京田辺キャンパス (夢告館101番教室)	【講座⑤】自分を知り自分を変える心理学:適応的無意識の発見 心理学部 及川昌典 准教授	【講座⑥】筋力トレーニングとスポーツパフォーマンス スポーツ健康科学部 渡邊裕也 助教
10月20日(土) 京田辺キャンパス (夢告館101番教室)	【講座⑦】金属の不思議:「顔」と「性格」は一致する!? 理工学部 エネルギー機械工学科 湯浅元仁 助教	【講座⑧】生体の抗酸化能を考える ～酸化ストレスに負けない体をつくろう～ 生命医科学部 医生命システム学科 市川寛 教授
10月27日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座⑨】「普通」と「異常」の境界とは?—英文学研究を学ぼう— 文学部 英文学科 金谷益道 教授	【講座⑩】宗教とはなにか—キリスト教の世界— 神学部 水谷誠 教授
11月17日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座⑪】EU離脱とイギリスの将来 法学部 政治学科 カ久昌幸 教授	【講座⑫】アジアの英語産業大国フィリピンにおける 英語教育政策-日本との比較を通して- グローバル地域文化学部 尾崎茂 教授
11月24日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座⑬】実学としてのマーケティング :企業との連携を通じた取り組み 商学部 高橋広行 准教授	【講座⑭】近代広告の誕生 ポスターがニューメディアだった頃 社会学部メディア学科 竹内幸絵 教授

Column 大学教育の今 「第3サイクルに入った認証評価」

2008(平成20)年に公表された中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」において、各大学が自らの教育理念と目標に基づき、学生の成長を実現する学習の場として学士課程を充実させることが強く求められました。これに伴い、本学では、すでに各学部・研究科の3つのポリシーの再策定が終了し、学士課程の充実を図るための取り組みを開始しています。

学生の成長と一口に言っても、それを目に見える形で示すことは難しく、短期的に測られる成果が学生の成長のすべてであるとはおおよそ言えません。しかし他方で、教育効果や学習成果を測定し、それを全学で共有し、学生に対してより良い教育環境を提供し、教育方法を開発していくことは、教育の質の向上のためにも重要です。

本学では、教育効果測定の手段として、「学生による授業評価アンケート」(2002年から)と「キャンパスライフに関するアンケート」(2004年から)を実施し、いずれも10年以上のデータの蓄積があります。しかしながら、これらのデータをどう活用するかという課題がありました。そこで今年度は、本センター設置のFD支援部会内の教育効果向上策検討ワーキング・グループおよび内部質保証検討ワーキング・グループにおいて、これらデータを実質的な教育改善へとつなげていくための方策を検討しています。年度末には検討結果を報告する予定です。各学部・研究科からも、これらのアンケートにつき、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

学習支援・教育開発センター所長 大島佳代子



「シーエルエフ レポート Vol.29」

同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート

発行日: 2018年10月1日

Tel. 075-251-3277 Fax. 075-251-3025

発行者: 同志社大学 学習支援・教育開発センター E-mail: ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp

京都市上京区今出川通烏丸東入 明德館1F <http://cf.doshisha.ac.jp/>